【作文】　小学生の部

「世界の子どもの人権を守ろう。」

米原小学校六年　　池田　優月

世界では、今も戦争が起きています。二〇二二年二月、ウクライナとロシアの戦争が始まりました。私は、当時小学校四年生でした。テレビで流れてくるニュースでは、ウクライナの美しかった街が、焼けていたり崩れていたりしました。日本では見たことがない景色に、言葉が出なかったことを覚えています。

私が友だちと遊び、学習をしている今も、学校や病院、家、人々が攻撃されています。私が生きているこの時代に、近くの国で戦争が始まってしまったことに、私が住んでいる日本でも、戦争が始まってしまったらどうしようと、不安や恐怖を感じました。それと同時に、ウクライナに住んでいる、私と同じ年齢の子どもたちの生活を心配しました。友だちや先生、ふるさとからも離れ国外に避難した人たち、家族と離れ離れになってしまった子どもたちのことです。攻撃から命からがら逃げ、その日を生きていくことに精一杯で、教育を受ける余裕もなく、楽しい時間を奪われているのではないかと思います。

日本では、一九九四年四月二二日に『子どもの権利条約』を批准しました。この条約の中には、住む場所があり、食べ物を食べることができる「生きる権利」、教育を受けたり遊んだりできる「育つ権利」、紛争や戦争に巻き込まれず、難民になったら保護される「守られる権利」、決めつけや偏見がなく、プライバシーや名誉がしっかり守られる「差別されない権利」の四つの権利があります。ウクライナでも一九九一年八月二八日に『子どもの権利条約』を批准しています。しかし、今のウクライナの子どもたちの権利が守られているとは、決して言えません。同じ子どもなのに、生まれて生活している国によって、権利が無くなってしまうのでしょうか。

多くの国で、人を殺したら犯罪者になり、逮捕されます。そして、自分の罪と向き合う時間を過ごします。戦争に行き、人を殺しても犯罪にならないのは、なぜなのでしょうか。両国の兵隊として戦っている人にも、家族がいて、自分の子どもを想い戦う人もいるでしょう。私は、なぜ同じ地球で生活していて、みんな同じ人間なのに、戦争により奪われてしまう命があるのか、理解できません。一人に一つしかない、かけがえのない命が、簡単に奪われてしまっていることが私は、悔しいです。そして、ウクライナだけでなく、世界で起きている戦争の全てが終結しないと、世界の子どもたちの権利が守られないと思います。

世界には、『子どもの人権侵害国』に指定された国もあります。そこでは、何人の子どもたちが命を落とし、普段の生活を送れず、苦しい思いをしているのでしょうか。私は、権利が守られず、人の命を簡単に奪ってしまう戦争に反対です。同じ人間同士、手と手を取り合い、何かあれば話し合いで解決できる優しい世界を創りあげたいです。そして、私たちが大人になったとき、私も子どもたちの権利を守っていける大人になります。

【作文】　小学生の部

「かくさ」

息長小学校六年　　伊部　良

ぼくは、オリンピックとパラリンピックの「格差」という言葉をネットで見つけました。

そこで金メダリストたちは報奨金をいくらもらっているのかを調べてみました。ヨーロッパのイギリスは金メダリストなどに報奨金はありません。アメリカは、オリンピック選手とパラリンピック選手の金メダリストに同じだけの報奨金が与えられます。それに比べ、日本は、オリンピックの金メダリストには４万ドル「日本円で約５００万円」パラリンピックの金メダリストには、２万ドル「日本円で約３００万円」与えられます。オリンピックと、パラリンピックではこんなにも、与えられる報奨金がちがうのです。

ここでなぜ同じ金メダリストでもこんなにも報奨金がちがうのか気になりました。

今年、パリオリンピックが開幕し、６週間後の８月２８日にパラリンピックが始まり、９月８日に終わります。この大会期間が短い分、表彰台に上る回数が少ないから報奨金が少ないらしいです。なぜ、パラリンピックは、開催期間も短く、報奨金が少ないのだろうと疑問に感じました。

そこで、オリンピックが開かれるようになったのか、意義を調べてみました。「オリンピックはスポーツを通して心や体を向上させ文化や、国籍などの様々な違いを乗り越えて友情、連帯感、フェアプレー精神を一人一人がもち平和で争いのないよりよい世界の実現に貢献することをねがって開かれた。」そうです。

パラリンピックの意義も調べてみました。「様々な障害がある、アスリートたちが、創意工夫をこらして限界を超えるパラリンピックは多様性を認め誰もが個性や能力を発揮し活躍出来る公正な社会を具現化するためのヒントが詰まっている大会」だそうです。

ぼくは、これを調べてみて、どちらもおたがいを尊重し認め合いながら、競い合っているのだなと思いました。スポーツを楽しみ競い合うことに健常者も障害者もなくすべての人が取り組むことができると思います。だからオリンピックとパラリンピックも平等に開催するべきだと思います。なので、報奨金の差はおかしいなと感じました。オリンピックとパラリンピックの格差は他にもあり、ユニフォームもパラリンピックの選手は、自己負担だったこともあるそうです。

日本を差別のない社会にしていくには、健常者と障害者も同じように評価されるべきだとぼくは思います。自分たちが当たり前と思っていることが実は差別していることになっているかもしれません。いろんなことに疑問を持ち、考えることが大切だと思います。

この夏のパリオリンピックが日本の差別をなくす一つのきっかけになることをぼくは願っています。

【作文】　小学生の部

「皆の良いところ」

河南小学校五年　　田部　りょう

私には、二十九人の仲間がいます。私の仲間は楽しく遊んだり、ちょっとふざけながら授業したりと楽しいクラスです。たまに喧嘩したり大きなトラブルにもなるけど仲間を大切にする気持ちや優しさが皆にはあります。そんなクラスがわたしは好きです。

私は色々見てきました。まず一つ目は、喧嘩していてもすぐに仲直りするということです。喧嘩しても反省して謝り仲良くしている所や一緒に遊んでいるところを見たり授業中にふざけて一緒に怒られているところを見ると「仲良しだなー」って思うこともあったりして喧嘩するほど仲がいいということはそういうことかもしれないと思い、このクラスは喧嘩しても仲がいいと感じています。

二つ目は、協力すると覚醒することです。五年で大縄八の字ジャンプに挑戦しようと決めて練習をしたけど最初は百回もできませんでした。皆で話し合い、工夫して、前向きな声かけもあり、なんと百回到達。五年のみんなで次は百五十を目標にしてがんばりました。そして百五十回達成して皆で「イエーイ」「次の目標は二百回！」などの皆の前向きな声でスピードもじょじょに上がってなんと二百到達！ランキングを見ると上位に入る順位でうれしかったです。皆で喜び三百を目標にして声掛けも大きな声で「1，2、はい！はい！」などの声が自然に聞こえてきて、連続で跳ぶことができ、ゾーン（気持ちがそろい、集中力が高まった状態）に入った瞬間、皆で「いけ！」の声等で盛り上がり、三百達成！皆で喜べる五年生が私はもっと好きになりました。

三つ目は、仲間を、大切にするということです。仲間を傷つけてしまったときにどうしたらいいのかを、皆で話し合って、決まった事を受け止め、その子にしっかりと謝ってどこが駄目だったかを反省して、ちゃんと気持ちを伝え、次、このようなことが起こらないように工夫をし、反省をいかせるクラスです。また、授業中にうるさくなって集中して学びたい人の迷惑になった時、授業ができない状態になった時に、皆で何回も何回も話し合いました。授業がしたくないのだったら、ある程度ノートに書いて、先生の話もある程度聞いているだけでいいという話し合いの結果になり、どうしても忘れそうな人、喋ってしまう人は、授業が始まる前に「意識しているの？」「忘れてないよな」とか声をかける等のアイディアも出ました。色々な意見が出て「皆こんな気持ちがあったんかー」と思いました。皆の意見をまとめ終わった時に、決まった事を皆がしっかりと守っていて、私は「よかったー」と思いました。

私が五年間見てきたからこそ思うことは、一人一人がめちゃくちゃ成長していることです。最初は何もわからず、「授業嫌やー」って言葉を言って楽しさがわからなかったけど、段々体も心も成長していくに連れ、楽しさがわかって、今では得意な授業がきたら「やった！」って言葉も聞こえてきます。自分も段々と友達の笑顔に連れられて時々笑ったりしています。

これが私が大好きな明るくて楽しい自慢のクラスです。